

淡黄緑色の小花が枝に沿って房状に多数つくこの植物は、シナミズキ（マンサク科）です。中国原産の落葉低木で、葉の展開に先立って開花し、前年枝の節ごとに数個の花がまとまって下垂する花序を形成します。個々の花は小型で、丸みを帯びた花弁をもち、中心には橙色の雄しべが配置されます。近縁のマンサク属が細長い帯状の花弁をもつものに対し、本種は幅広で短い花弁をもつ点が識別上の特徴です。また、花序全体が密に集まることで、枝全体が淡色に見える外観を示します。

3月下旬の小石川植物園では、落葉した枝に花のみが目立つ状態で観察され、早春開花型の木本植物としての性質がよく表れていました。葉が展開する前に開花することは、受粉効率の向上や視認性の確保といった生態的意義をもつと考えられます。シナミズキは観賞用としても利用されますが、その花序構造や開花時期は、マンサク科植物の形態的多様性や季節適応を理解するうえで興味深い対象といえます。

